



# AA日本ニュースレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No. 123

## 国際協力献金のお願い

1935年6月10日はアメリカのオハイオ州アクロンに、初めてAAが生まれた日です。これより1ヶ月ほど前にビルがメッセージを運んでいます、その相手というのがドクター・ボブだったのです。その後もドクター・ボブはなかなかお酒を止めることができませんでした。6月10日(月)、この日にドクター・ボブは手術の予定があり、ビルに付き添われ、病院に手術を実施するために行ったのですが、手が震えて手術出来る状態ではありませんでした。そこで手の震えを抑えるためと精神を安定させるために一杯のビールを飲み、手術に臨みました。この手術は無事に済んだのですがなぜかドクター・ボブは奥さんとビルの前に姿を見せませんでした。二人が心配している中、夜遅くなってから帰ってきました。その理由はドクター・ボブが沢山の迷惑をかけた人たちに埋め合わせをしていて帰りが遅くなってしまったということでした。そして、これが最後のお酒となり、その後亡くなるまで一杯のお酒も飲むことはなかったということです。この6月10日は出会いの日ではなく、ドクター・ボブが最後にお酒を切った日で、これがAAの誕生日となったようです。

このようにアメリカにAAが誕生してから今年で72年の歳月が経過し、1935年にAAが誕生してから40年後、様々なルートをたどり日本にAAが運ばれたことをご承知の通りです。詳細は「いくたびもの出会いを重ねて」AA日本20年の歩みをご参照ください。こうして現在の日本のAAの基礎ができ、今ではグループは470以上となって、4,000人以上のメンバーが日々ミーティングに参加し、このプログラムの恩恵を受けています。また日本語のビックブックは初版の際、アメリカ・カナダの手助けを得て発行されましたが、今では2000年に翻訳改訂されたビックブックが4つのタイプ(ハードカバー、ポケット版、文庫版、大型判)の書籍に加え音声CD(7枚組み)として発行されています。その他の書籍出版物(英語版の翻訳発行、日本オリジナル)は各種パンフレットを含め、求めればすぐ手に入れることができるようになりました。12年前には評議会/常任理事会という全体サービス機構も立ち上がり、原理に基づいた自立を目指し、様々な活動ができるようになりました。またニュージーランドのメンバーの力を借りて始まった矯正施設へのメッセージも近頃の社会要因も重なり活発に行なわれるようになってきました。私たち日本のAAの現在があるのも多くの外国からの手助けがあったからなのだと思います。

世界に目を向けてみるととても多くの国(183以上の国と地域)にAAのメッセージは届けられてはいますが、この素晴らしいプログラムの恩恵をうけることのないアルコールで苦しんでいる人たちはまだまだたくさんいます。そしてAAのメッセージが届いている国の中でも多種民族、多種言語という障壁によってAAの書籍、パンフレットの翻訳が遅れ

ている所もあります。また経済的理由によって自国語での翻訳ができない国や政治的な問題で発行が難しい国にも中にはあります。現在ビックブックに限ってですが翻訳されている(それぞれの国あるいはニューヨークGSOで)のは83言語、そして今もいくつかの言語が発行を目指して、翻訳作業の途中となっています。

アジアに目を向けて見ますと、東南アジア諸国では現在、ほとんどのミーティングは出張や転勤で来たAAのメンバーが自分たちにとって必要なものとして捉えられているようです。それゆえ自分たちが帰国してしまった後を引き継ぐ地元のメンバーにメッセージを届けることが十分にできない状況が続いています。AAそのものの危機に立っている国も多いように聞いています。また前述のような言語の問題を抱えている国も多く、インドにおいては国の中に幾つの言語があるかわからない状態です。何人もの通訳を介して初めてコミュニケーションが取れる状態もあるように聞いています。同じ国に住んでいながら言葉の壁があり、その中でのミーティングは苦勞が多いと思われる。日本語はとても恵まれているのではないのでしょうか。

この7月6, 7, 8日埼玉県嵐山にてAOSM(アジア・オセアニア・サービスミーティング)が開催されます。過去6回開催されてきたこのミーティングにはおよそ10ヶ国ぐらいから評議員が集まり、アジアオセアニアについてサービスの経験が分かち合われ様々な話し合いが行なわれてきました。このミーティングは発言はできませんがオブザーバーとして参加できます。私たちと同じアジアの国のメンバーたちの話を聞く機会が与えられました。興味のある方参加してみませんか。また昨年の皆様からの国際協力献金で、モンゴルからの評議員参加のお手伝いができることになりました。モンゴルはAAが誕生して9年経ちますがAOSMに参加は5回の香港開催参加から今回で2度目となる予定です。多くの分かち合いが出来ることを期待しています。この機会に世界のAAのこと、まだAAの届いていない国の人々のことを考え、私たちに何が出来るのか考えていただきたいと思います。例年の通り今年も国際協力献金をお願いしたいと思います。それぞれのグループで話し合っただけで良心を集めていただければ幸いです。国際協力献金の期間は6月10日を挟んでの2週間としたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

私たちの献金によってパンフレット、小冊子、ビックブックがいろいろな言語に翻訳され、それによって回復する人が現れ、その国にAAが日本のように根付いてくれるとしたら、私たちができる間接的ではあるけれど、大きなメッセージを運んだことになるのではないのでしょうか?

WSM前期評議員 今井

## AOSM開催のお知らせ

第7回アジア・オセアニアサービスミーティングが日本で開催されます。

7月6日(金)、7日(土)、8日(日)

国立女性教育会館(NEWC ヌエック)

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728番

東武東上線武蔵嵐山駅下車 徒歩15分

オブザーバー参加や宿泊、ボランティアなどのお申込は5月31日まで。各グループに申込用紙が送られています。

## AAポスター(A4版) デザイン公募のお知らせ

各グループにはポスターデザイン募集のお知らせを4月に届けいたしました。募集要領は以下のとおりです。

1. 提案の趣旨である全国でみんなが使えるものとしてください。
2. デザイン内の問い合わせ先表示はJ S Oとしてください。以下のように(参考まで)

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(J S O)  
住所、電話 FAX、ホームページアドレスの明記。

3. 評議員をとおして応募してください。出来ればデザインに含まれた思いなどを別紙に書き添えてもらえばありがたいです。
4. 一人の提案者が応募できるのは1点とします。
5. ポスターの大きさはA4(縦)版サイズにしてください。
6. 選定は第13回全国評議会の広報病院施設委員会分科会の中で行います。
7. 原則として応募されたデザインの原版は返却いたしません。

締め切りは2007年9月10日とします。

送付先 NPO法人 AA日本ゼネラルサービス 気付  
広報病院施設委員会宛

住所 171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

## メンバーシップサーベイのお知らせ

4回目のメンバーシップサーベイを行ないます。

来月の定期発送で各グループにアンケート用紙や返信封筒などをお届けする予定です。

サーベイの質問項目などは前回と一緒にありますが、2004年の時に比べて現在の日本のAAの動向や形態に変化が見られるのでしょうか。

より正確な情報をAAの外にお知らせするために、多くのメンバーからアンケートが回収できることをお願いいたします。

## 矯正施設入所体験集作成の原稿募集

AAの本を読んで助かったという仲間の話をよく聞きます。全ては経験を基にして出来たものですから、おおいに共感を呼ぶのだと思います。

しかし、社会にいる私たちは豊富なAA書籍から多くのものが選べますが、矯正施設(少年院・刑務所)にいる私たちの仲間は、今のところその選択肢は持っていません。自分たちと同じ経験をした人が飲酒の問題から回復し、幸せな社会生活を営んでいることは、すばらしい希望の福音です。

常任理事会広報病院施設委員会は、第12回AA全国評議会に「矯正施設にいる仲間たちに届く体験集」作成の事業活動を提案させてもらい、分科会・全体会議で評議員の方たちの暖かい良心を得て勧告決議を頂きました。ありがとうございます。

本年度の計画としては、AAの回復のプログラムで助かっている仲間(矯正施設を体験した)たちの原稿を寄せてもらい、「矯正小委員会」で選考しまとめます。5編か6編の物語を小冊子の体裁にしていきます。そして次年度の評議会にまとめたものを提出し、出版物として皆さんの手元に届くように考えています。

**自発的な本人の応募、また身近にいる体験者に声をかけて頂き、すばらしいメッセージが届くように皆でしませんか。**

応募に際しては、以下の点に留意されてください。

1. 物語の内容は、回復の希望を必ず記述をこと。
2. 犯罪歴の**具体的記述**はさけること。  
例として：(私は18歳のとき刑事事件を起こし、8年の判決を受け東北の某刑務所生活となった。アルコールの問題など自分にあることすらわからず、出所し、何の抵抗もなく酒を口にしました。)
3. 具体的な施設名とか人名は記述しないこと。
4. 原稿は、概ね4000字くらいでまとめること。
5. 投稿者は住所/氏名/電話番号を明記のお願い。(監修時の連絡などで必要のため)公表はしない

矯正小委員会は次のことを考え

実行させていただきます。

- a. 5・6編が集まった時を締め切りとします。(AAのプログラムにそぐわないものはパスします)
- b. 原稿の監修をしていきます。
- c. 出版書籍には、ニックネール/匿名/ファーストネームといった執筆者の希望名を記述させていただきます。
- d. 監修に際して矯正の専門分野の方の協力をお願いしていきます。
- e. 最終的な段階でAA出版物ですので「出版委員会」にゆだねます。(単価、製本体裁等)

投稿先

J S O気付 広報・病院施設委員会/矯正小委員会宛  
をお願いします。

## 評議会憲章・常任理事会準則の施行

評議会憲章・常任理事会準則が試行期間を終え施行されました。各グループに届けられています、ご確認ください。

現在の日本の全体サービス機構の骨格を成すものですが、これからよりいっそうAAの大きな目的を達成するために効果的なものにして行くことが必要でしょう。

## 第7回全国サービスフォーラムの案内

全国サービスフォーラムは第1回の名古屋を皮切りに以後札幌、郡山、大阪、福岡、山口で開催されました。関東甲信越地域で開催される第7回が最後となります。

日時：

2007年9月15日(土)、16日(日)、17日(祝)

場所：

国立女性教育会館(埼玉県嵐山)

第1回の実行委員会(2006年6月)では「なぜメンバーが(他国にくらべて)増えないのか?今の日本のサービスがどうであるか?日本の現状に適したサービス体系になっているか?」という疑問から始まりました。

討議を進めていくうちに、「ミーティングには何人くらい参加しているか?」「グループには何人くらいメンバーがいるのか?」「役割はどうしているのか?」等、身近な問題から調査をしなければならぬことがわかり、アンケートを実施することに決定しました。

関東甲信越のある地区委員会へ協力をお願いに行ったときも「アンケートはがきなんて入っていましたっけ?」「うちの代議委員はそういうのに興味がなく捨てちゃってるかも?」など、現場の話が聞かれ大変参考になりました。

私も初めての代議員の時そうだったように、オフィスからの郵便物を開封し忘れたり、ビジネスミーティングがめんどくさかったり、サービスがいやだった頃のことを思い出しました。

4月現在実行委員会ではアンケートの回収、集計に全力を注いでいます。オフィスに登録している約400グループ中150グループくらいしか回収されていませんが、集計結果を見ているだけでも今日もどこかで誰かがミーティング会場を開け、お茶を沸かし、新しい仲間を迎える準備をしている風景が浮かんでくるようです。

テーマは「あなたもできます、皿洗い」、サブテーマに「回復のお手伝い」としました。

新しい仲間も皿洗い(茶碗洗い)に参加できるよう今回のサービスフォーラムでは参加型のワークショップ形式をメインに進行していく分科会等を企画しています。

全国のメンバーに協力をお願いします。はがきが届いてないグループや紛失してしまった、あるいはそんなアンケートのことなど知らない代議員さんがいましたらJSOにご連絡下さい。

ミーティングに仲間がどんどん増えて茶碗洗いも追いつかない。そんな日本のAAへのきっかけになるようなフォーラムにしたいと実行委委員会一同確信しています。

第7回全国サービスフォーラム実行委員会実行委員長

関東甲信越地域 東京タワーグループ あろう

## 地域の分かち合い

### 東北地域より

#### 東北地域の過去と現状

前東北地域議長 佐藤 伯夫

自分が地域のサービスに携わったのは2000年からですが、この年から東北地域が大きく動き始めました。

その当時の東北CO運営に対する疑問の声(職員に関する問題やCOの役割、構成など)が集会の中でとりたてられたのがきっかけでした。これらの疑問を解決するために集会や臨時集会等が何回か開催されました。

これらに参加していて感じたことは『オーソドックスなAA』と『日本や東北の文化を採り入れたAA』の存在でした。どちらにも一長一短はあって決定を求められた時には判断に苦しむことが何回もありました。しかしそれ以上に苦しかったのは何回にも及ぶコンファレンス(会議)でした。休日が減りました。また議論が熱くなり傍目にみると争っているように感じられることがありました。その為なのか参加者も少しずつ減っていくようになりました。そのような紆余曲折を経て東北COは12ステップコールに答える業務だけにしぼって活動を継続することとなりました。

これで全て丸くおさまるかと思われましたがもっと大きな問題が発生するようになりました。東北COに関するコンファレンス(会議)で経験した苦しみ地域サービスに対する関心を失墜させてしまったのでしょうか?参加代議員が足りずに集会が成立しないようになってしまったのです。何度呼びかけても成立はしませんでした。ですから遠方からわざわざ時間を割いて参加していた仲間から集会成立条件に対する疑問が起き始めたのは当然の成り行きであったと思います。しかし自分はいくまで「集会成立条件」にこだわり続けました。地域の一体性なくして地域の存在はありえないと考えていたためです。

何とか地域サービスに対する信頼を回復しようと色々と試してみました。例えば年二回であった集会を三回に増やし東北の北部(盛岡市)と中部(仙台市)そして南部(郡山市)の三都市で出張開催したりもしましたが思いは届きませんでした。

自分が地域議長の役割を頂いた頃は嘆いてばかりはいられないと集会に参加しやすくなる環境作りの為に仲間と協力し色々なことを実施しました。代議員に限らず多くの仲間との話し合いの場を設けたり宮城地区では代議員ハンドブックを作成しワークショップを開催したりもしました。地域の棚卸実行委員会を立ち上げ地域の棚卸を実施しました。またスムーズなコンファレンス(会議)となるように議事進行方法を評議会に模したものにしたりもしました。

結果として東北地域は全国的にみても進んだシステムを導入した地域となりました。でもそれは限られたある意味マニュアル(?)な仲間達で考え構築したものですから例えるなら乗り手を限定する運転が難しいスポーツカーのようなものにしてしまったのではないかと今になれば考えてしまいます。

2004年からは評議会憲章に基づき集会成立条件も撤廃となりました。するとますます参加者は少なくなっていきました。それまでは何とか評議員と地域議長は選出されていま

したがとうとう地域議長が選出不能となり2005年は地域活動が休止する事態となってしまいました。(評議員の努力により2006年は再始動する)その後自分も暫くサービス活動から離れていましたが2007年になり久々に地域集会にオブザーバーとして参加してきました。

役割に欠員があったりして苦勞はしているようですが参加者全員の真剣さが伝わってくるすばらしい集会であったと思います。過去に自分が感じた二つのAAの溝は少し埋まったのかなあと感じましたしこれからも東北地域は変わり続けていくと信じています。

「AAに引退なし」「AAの未来に対するわれわれの責任・・・」という先行く仲間が残してくれた言葉があります。いまいちど意味をかみしめて自分も自分ができることを過去にとらわれることなくやっつけようと思います。自分自身とこれからやってくる仲間のために・・・

### 東北地域のサービスと現状

東北地域委員会議長 佐藤桂奈子

私達、東北地域は1983年、最初に仙台柏木グループが誕生して、以降、順調にグループ(以下G)は増え1989年、東北地区懇談会が発足。同年、評議員選出の話し合いを持ち東北セントラルオフィス(現東北インターグループオフィス=TIO)設置委員会設立と、現在の東北地域委員会への活動を展開してきました。2000年、東北セントラルオフィスの経営は困難に陥り、これを機に東北地域委員会とTIOは、本質的な機能が異なりつつも協力し合う2つの機構となりました。しかし続く2001年第3回~2003年末、東北地域集会は定足数を満たさず、連続7回の不成立。2005年には、地域委員会議長他6名の役員選出がならず、東北地域委員会は活動を停止しました。代議員達は当時の評議員と代理にその年の集会開催を付託、翌年の地域役員選出に希望を繋ぎました。

この間、私たちはそれでも尚、自分たちに出来る事、更なる展開を求め努力しました。2004年に初めて「地域の棚卸し」が行われ、スポンサーシップの弱さが鑑みられました。また、集会定足数問題は第9回評議会にて採択されたAA日本評議会憲章の5条により、明快な解決を得ました。私たちは第9回評議会決議に則り、2年(後にプラス1年)の地域での憲章をまず試行してみよう、そして不具合があれば、その経験を評議員に託し更なる改善の礎を作ろうと決めました。AA日本評議会機構の指針の大元は評議会憲章であり、それらを実行していく手引きとしてサービスマニュアルとAA日本サービスガイドがありますが地域での実践には更に細かな取り決めが必要でした。先達が智慧を絞り、その時々の集会で持った地域合意ですが、2004年の集会にて「参加メンバー個々の認識の違いが東北地域委員会、集会での混乱を招いてはいないか」との問題提起がされました。参加するメンバー全員が共有できる憲章を基盤とした「東北地域委員会、集会ガイドライン」は2006年に策定されました。同年、東北地域委員会主催「代議員オリエンテーション」に伴い「東北地域代議員ハンドブック」を刊行、今年7月の盛岡

集会で2度目の「地域の棚卸し」をすべく、実行委員会と地域委員会が調整中です。他、昨年末の集会にて「献金フォーラム」の開催が地域委員会に提案、財務理事の後押しを受けつつの努力目標となっています。

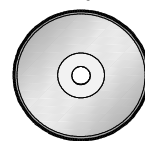
現在、東北地域では代議員28連絡員9の合計37Gの登録があります。地域役員の選出は困難で、前期評議員、同代理、宮城地区委員、広報委員会チェアパーソンが欠員です。特にAA外部からのプログラム要請には広報チェア不在の中TIO、JSOの臨機応変な対応をご協力頂き、感謝が尽きません。

地域サービスについての意見は代議員を通じ、集会でされる事が第一ですが、それ以外の場面でも、また個人的な考えや感想、質問でもメンバーからの声はとても嬉しい事です。そのようなメールが少しずつ増えてきた中、サービス経験豊かなメンバーから先日素敵な言葉を頂きました。「ガイドラインや、代議員ハンドブック、これらはハード面だよ。でもこれだけではダメだよ。ソフト面の充実を考えないとね」「はい」と答える私は嬉しくなりません。ソフト面とは人と人の中に持つ会話であり、自由に意見を交わしながらも相手への思いやりを忘れないその関係性でしょう。かつて損なわれたのはこうした会話そのものでした。何年もの間、硬直し、動かなかった状況で私は私の望まない意見や、好みではない表現、言葉づかいに左右され、心の中でよく人を裁きました。「あの人が聞く耳を持たないからだ」「彼があんな事を言ったからだ」私は私の不利益を他者のせいにする臆病者でした。美しい人がいました。凛とした人でした。誰かの為に駆けずり廻る人でした。よく見ると声を荒げる人、無作法だと思った人、優柔不断に思えた人達も皆、誰かの為に懸命ゆえの様でした。みっともなく、美しい。目を見張りました。サービスはそういう人たちに近づくチャンスだと知らされました。

年に4~5回開催する地域集会に参加を希望しながらも実現が難しいGが多いのは地理的状況からも得心する所です。毎回参加が困難なら年に1度でも良いのです。例えば、予算が話し合われる第1回、或いは評議員選出のためにと第4回のみ、Gは集会参加の為に献金を準備し、自分たちのゼネラルサービスへの関与の仕方を選び取っていく。「ここにこそ」という思いで、代議員を集会に送り出す。そのような有り様も素敵だと思うのです。憲章5が私達に保障しているのは主体的な選び取りです。皆さん、美しい人をご紹介します。東北地域集会で会いましょう。

### ビッグブックCD(7枚組)が頒布されています。

従来の録音はカセットテープで行なっていましたが、マスターテープの劣化が見られCDへの録音が急がれていました。



落ち着いた女性の声で日本語版改訂版の序文から伝統、概念など7編の付録が録音されています。

頒布価格¥4200

編集・発行 NPO法人 AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)

〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419

http://www.aajapan.org aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp (月~金) 10:00~18:00 (土・日・祝) 休